

## つながるということ

小 六

私の学校には、大人数で勉強することが苦手な子などが、先生といっしょに一つ一つでいねいに勉強を進めていくクラスがあります。その中に、障害のある下級生の女の子がいます。

そうじの時間のことでした。私がそのクラスの前を通りかかったとき、その子が一人であろうかに座りこみ、泣いていました。どうやら、そうじが上手くできずに泣いていたようです。私は、その子のぞうきんを貸してもらい、ふくまねをして見せました。すると、ぞうきんを持ってふき始めたのです。「よい、どん。」

とならんでいっしょにふくと、みるみる笑顔になり、そうじもいつの間にか終わっていました。私が帰るときにその子が見せたとびきりの笑顔は、ぴかぴかがやいていました。

二年前のある朝、登校班で歩いているその子を見かけました。班長の女の子と手をつないで歩いていました。班長さんは時々話しかけ、笑い合い、楽しそうに登校していたのです。座りこみ動かなくなっても、おいていくことなく、声をかけて学校まで手をつないでたどり着いていました。その班長さんが一年間ずっとやり続けていたことを、私は何度も見ていました。

自分ならできるだろうか、笑って手をつなげるだろうか、と考えます。そうじをお手伝いした日から私のこ

とを覚えていてくれて、その子から話しかけてくれるようになりました。朝は、門の前で待っていてくれ、しろう降口までいっしょに行くことも多くなりました。私のことを名前前で呼んでくれました。「あ、そうなんだ。この気持ちなんだ。」と気付きました。班長さんは、毎朝やらされていたのではなく、その子と歩くことが楽しみだったのだと思います。私がそうであったように……。そして、いつの間にか門の前でその子を探すことが、朝の日課になっていました。

私がたった一度助けたことで、心を開き、明るく近づいてきてくれたその子は、人見知りの私に友達になるきっかけを作ってくれました。

人と人がつながるといふことは、言葉のコミュニケーションだけではない

何かがあると思います。私はその子といると、とても素直な気持ちになれたのです。

どうすれば、クラスや学年、地域の私たちとやさしくつながれるのでしょうか。その子が教えてくれました。人の気持ちをじゅんすいに受けとめること、積極的に相手に声をかけることの大切さです。私はふだん、見栄を張ってしまったり、いやな気持ちになったりすることがありますが、一つぶのやさしさをもち、人と接することを目標に生活していきたいです。